

第 23 回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC23）の開催にあたり

環境省自然環境局生物多様性センター長 松本 英昭

平素より自然環境保全の推進にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

国や都道府県等の自然系の調査研究を行っている機関で構成される自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、自然環境保全及び野生動植物保全等に係る情報交換・共有を促進し、ネットワークの強化等を図っていくことで、科学的知見に基づく自然環境保全施策の推進に寄与することを目的としています。1998年（平成10年）の発足以来、現在、54機関に参加いただいております。今年で第23回を迎えます。NORNAC23の開催に当たっては、山口県環境保健センターにホストとして多大なご尽力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

今年は、山口県山口市で調査研究・活動事例発表会及び連絡会議を開催する予定で準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、今回は、発表会については調査研究・活動事例集をとりまとめて公開する形式に、連絡会議については書面形式による開催に代えさせていただきました。

直接お会いして情報や意見を交換することは、目に見える以上に実りあるものであり、それが叶わなかったことは大変残念であります。一方で、制約や慣れない中でご不便をお掛けしつつも、遠方からの構成機関の参加などオンラインならではの利点もあり、山口県環境保健センターのご配慮とご尽力で今回の開催に至ったことは、with コロナ・ネット社会に応じた情報共有のあり方を模索し、今後のNORNACネットワークの一層の強化を図っていく一助になるものと考えています。

さて、環境省生物多様性センターは、わが国の生物多様性の保全を推進し、世界の生物多様性の保全に貢献するため、各種施策に結びつく科学的な情報基盤の整備と強化に向け、生物多様性に関する「調査」「情報提供」「資料収集」「国際協力」等に係る総合的な取組を推進しています。生物多様性の保全を目的とした施策の企画・立案や適切な対策を実施するためには、日本の自然環境及び生物多様性の現状とその変化を的確に把握する必要があります。当センターでは、全国を対象に、国土の自然環境の現状、各生態系の生物種データ、状況や変化などの把握を目的に各種調査を実施しています。

その主な一つである「自然環境保全基礎調査」は、1973年（昭和48年）に開始され、2023年（令和5年）には調査実施50年を迎えます。また、昨年度、皆様へ第3期のとりまとめについて共有しました重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト1000）については、今年度で開始から17年目を迎え、継続的なモニタリングの結果から、日本の自然や生態系に何が起きているか、知見や情報が蓄積されつつあります。

気候変動の影響や大規模な災害への対応、人間社会と自然界（野生）の均衡バランスの崩れに起因する問題（鳥獣被害、人獣共通感染症など）、少子高齢化・人口減少等、わが国の自然環境の態様や社会構造が大きく変化してきている中で、「これまでの50年」と「これからの50年」を見据え、保全上の課題や施策の方向性の変化に対応し、自然環境の現状とその変化を的確に把握して保全施策に結びつける自然環境関連の調査やモニタリングは、今後、益々重要な役割を担っていくものと思われまます。

当センターが実施する全国を対象とした調査の枠組みでは、どうしても広く・浅くという調査内容にとどまってしまう傾向は否めませんが、全国の自治体の調査研究機関が、それぞれの地域について、より深い、厚みのある調査研究を行うことで、全体として日本の生物多様性の保全に役立つ知見の蓄積と情報提供の基盤強化につながるものと考えています。

各自治体の環境研究所や博物館等が参画し、情報の共有・交換、共通化等により相互の連携を図るNORNAC23の開催、そして今後の活動を通じて、日本各地の自然環境や生物多様性保全の推進の基盤となるNORNACネットワークの更なる発展を祈念して、巻頭の挨拶とさせていただきます。